

## 福岡県公安委員会活動状況

### <定例会の主な議題及び要旨>

平成30年4月19日（木）

#### 【報告事項】

#### 1 第31回福岡県警察装備資機材開発改善コンクールの実施について

（総務部）

警察本部から「本コンクールは、科学技術の進歩、社会情勢の変化等に即応した警察装備の充実を図り、良好な職場環境の整備等を図ることを目的としている。各部門の業務の問題点や要望に応じ、業務の効率化と高度化を図るために開発改善を行った装備資機材を募集するもので、優秀な作品については表彰を行うこととしている。」旨の報告があった。

公安委員から「応募作品は、どの位あるのか。」旨の発言があり、警察本部から「一昨年の予備審査には、アイデアを含め約500点出品された。本コンクールにおいて、特に優れた作品を全国コンクールに出品する。」旨の説明があった。

公安委員から「改善を提案することは重要であり、出品者を幅広く募集する必要があるが、出品者に対する表彰は、どのように行っているのか。」旨の発言があり、警察本部から「予備審査を通過した10作品に対し、本審査を行い、優秀作品1点を本部長賞、その他の優良作品を総務部長賞、装備課長賞として表彰する。」旨の説明があった。

#### 2 平成30年春の勲章伝達式の実施について

（警務部）

警察本部から「平成30年春の勲章伝達式は、5月8日、博多サンヒルズホテルにおいて実施する。受章者数は96人となっている。式では、勲記・勲章伝達等を予定している。」旨の報告があった。

#### 3 刑法犯認知・検挙状況について（1～3月）

（生活安全部・刑事部）

警察本部から「刑法犯認知件数は、戦後最少を記録した前年を更に下回り、刑法犯検挙率は向上している。今後の取組としては、増加しているひったくり対策について、未然防止のための広報啓発活動や本部執行隊の投入など、検挙・抑止対策を強化していく。」旨の報告があった。

公安委員から「横領、背任、詐欺などの知能犯犯罪は、被害額が高額となる事件も発生しており、事件解決に向け捜査を推進してほしい。」旨の発言があった。

公安委員から「ひったくりの被害に遭う男性は、どのように被害に遭うのか。」旨の発言があり、警察本部から「男性被害者は、ズボンの後ろポケットに入れた長財布をひたたくられているケースが多い。」旨の説明があった。

公安委員から「窃盗犯の認知件数がかなり減少しているが、原因はどのように考えているのか。」旨の発言があり、警察本部から「警察によるパトロール活動の強化、防犯ボランティア活動の活性化、街頭防犯カメラ設置数の増加による抑止効果などの各種検挙・抑止対策などが効果を上げていていると考えられる。」旨の説明があった。

#### 4 性犯罪対策の推進状況について（1～3月）

（刑事部・生活安全部・総務部）

警察本部から「性犯罪認知件数は、前年より増加しており、特徴としては福岡地区の発生が全体の約半数を占め、10歳代と20歳代の被害が全体の約7割を占めている。今後の取組としては、分析結果を活かし多発時間帯・地区に対する集中した捜査の展開

や新生活時期を捉えた広報啓発など、検挙・抑止対策を推進し、「性暴力被害者支援センター・ふくおか」との連携など被害者支援に関しても取り組んでいく。」旨の報告があった。

公安委員から「性犯罪認知件数は、福岡地区は高水準で推移し、他の3地区は全て前年を上回るなど、増加傾向にあり、福岡県の性犯罪認知件数が、全国的に見ると依然として高水準で推移していることは、福岡県のマイナスイメージとなるが、認知件数が増加しているのは、今まで隠れていた余罪が出てきているのか、または、そもそも発生が増えているのか。これから夏場に向けて性犯罪が増加することが懸念されることから、徹底した取締りをお願いする。」旨の発言があり、警察本部から「被疑者を検挙した後には余罪として認知する場合もある。」「委員御指摘のとおり、福岡県の性犯罪認知件数が多いという点については、様々なことが考えられるが、10歳代20歳代が多く被害に遭っており、福岡県の女性の10歳代20歳代の年齢別人口構成が他県と比較してやや多いということも1つと考えられる。いずれにしても、人口比率による性犯罪認知件数は全国ワースト2位であり、福岡県において性犯罪対策は重要な課題であると認識している。」旨の説明があった。

## 5 特殊詐欺対策の推進状況について（1～3月）

（刑事部・生活安全部）

警察本部から「特殊詐欺の認知件数は、昨年と同水準で推移しており、特徴としてはキャッシュカード受取型も急増し、コンビニ等を利用した電子マネー型及び収納代行利用型の割合が増加している。今後の取組としては、「だまされた振り作戦」等による現場検挙やコンビニ等防犯協議会と連携した電子マネー型及び収納代行利用型の詐欺対策の強化など、検挙・抑止対策を推進していく。」旨の報告があった。

## 6 北九州市立大学における業務上横領事件被疑者の逮捕について

（刑事部）

警察本部から「八幡西警察署及び捜査第二課は、研究機材を質屋に売却した業務上横領事件について、4月12日、北九州市若松区居住の大学教員の男性を逮捕した。今後、所要の捜査を実施し、事件の全容解明を図る。」旨の報告があった。

## 7 車両の逃走防止訓練（実験）の実施について

（地域部）

警察本部から「被疑車両の逃走を防止するに当たり、警察官が負傷する事案が散見されることから、同種事案を安全かつ適法に防止する方法を研究する目的で、5月上旬、福岡市内において、執行隊を中心に警察本部10所属が参加し、器具を使用した逃走防止訓練を実施する。」旨の報告があった。

公安委員から「今までは、どのようにして車両の逃走を防止していたのか。また、器具の使用は、過剰な職務執行となることはないのか。」旨の発言があり、警察本部から「被疑者を説得しながら必要に応じ器具を使用するなどしていたが、本訓練において、どのような器具を用いれば、車両を安全に停車させることができるのかを研究する。また、器具は、被疑者の逮捕など必要最小限度の範囲内において使用するものである。」旨の説明があった。

## 8 殺人未遂事件被疑者の逮捕について

（暴力団対策部）

警察本部から「工藤會関連事件特別捜査本部は、平成24年9月、北九州市小倉北区内のマンション出入口前において、被害者に対し、刃物様の物で突き刺すなどした殺人

未遂事件について、既に逮捕した被疑者らに対する突き上げ捜査により、4月13日までに、五代目工藤會幹部ら4名を逮捕した。」旨の報告があった。

公安委員から「今回の事件検挙は、未解決事件の検挙となるのか。」旨の発言があり、暴力団対策部長から「一部の被疑者は既に検挙していたので、完全な未解決事件ではないが、今回は、既に検挙していた組員に対し、指示を出していた組長らを検挙したものである。」旨の説明があった。

#### 【その他の報告事項】

- 警察本部から「例年春の人事異動の時期に、職員の生活状況、公私にわたる問題等を組織的に把握した上で、必要な助言や援助を行うことにより、職員が生き生きと職務に専念できるようにすることを目的に、「身上指導特別強化期間」を設け、警部以下の全職員に対する個人面接を実施している。先週発生した滋賀県警察における若手警察官によるけん銃を使用した上司殺害事件については、未だ動機・背景等不明ではあるが、特に若手職員に対し、不安や悩み事に配慮した身上把握を行うよう、本部長通達により各所属長に指示している。今回の特別強化期間にかかわらず、今後も平素から、個人面接等を通じて悩み事等を把握しながら、よりよい職場環境を作っていく。」旨の報告があった。
- 警察本部から「明日警察署長会議を開催するが、あわせて今回の人事異動で初めて警察署長となった署長を対象に「新任警察署長研修」も実施する。また、来週は月曜日に会計課長、水曜日に総務課長会議を警察署の課長を集めて開催する。さらに、来週の木曜日には、G20サミット対策課の発足式を行う。」旨の報告があった。
- 公安委員から「本日、県医師会との意見交換会を開催するが、有意義な意見交換会としたい。」旨の発言があった。